

## 【1】令和7年度 教育調査の結果について

このことについては、本校の学校だより（『西宮だより』令和7年度2月号）において、保護者や学校運営協議会にお示しました。令和8年2月27日（金）には本校において学校関係者評価委員会が行われ、教育調査の分析に基づいた自己評価（教育活動の成果・課題、改善策等）について、学校側から委員の皆様 に説明をしました。この度、【1】「教育調査の結果」と【2】「自己評価・学校関係者評価」につきまして、本ホームページ上で公表いたします。

### 1 生徒対象の教育調査の結果

教育調査（生徒対象）の結果（肯定率）\*青字は前年度の肯定率を上回ったもの 回答率：90.0%(R5) 91.3%(R6) 91.3%(R7)

	質問内容	本校肯定率の推移		
		R5	R6	R7
1	先生は、クラスのみんなが分かり合い、協力し合えるようにしてくれている。	86.2%	84.6%	84.2%
2	授業では、学習を進める方法やペースを、自分で決めながら学んでいる。	55.6%	61.1%	65.7%
3	授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。	41.2%	53.3%	56.4%
4	授業では、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学んでいる。	53.4%	57.1%	54.1%
5	授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる。	81.7%	84.6%	81.8%
6	学校の授業によって、分かることやできることが増えている。	80.7%	84.6%	80.9%
7	先生は、授業で自分ができたことを誉めてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。	74.6%	79.6%	74.3%
8	先生は、授業において電子黒板やデジタル教科書を活用している。	93.6%	94.7%	95.0%
9	先生は、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とどのようにつながっているか、教えてくれている。	76.2%	79.9%	79.9%
10	道徳の時間では、友達や家族、地域の人たち共によりよく生きることの大切さについて、みんなで話し合っている。	77.5%	82.4%	81.8%
11	先生は、健康な生活を送るために必要なことを教えてくれている。	74.9%	80.9%	81.8%
12	学校や家などで、1か月に本、新聞、雑誌、調べ物をするための資料などを読んだ。	84.9%	81.8%	75.2%
13	地域の行事に参加している。	24.4%	33.2%	34.0%
14	先生は、地域の人たちと協力しながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。	46.9%	56.1%	55.8%
15	先生は、整理・整頓や清掃について、話をしたり考え（活動）させたりしている。	61.4%	72.1%	70.0%
16	先生は、体験的な活動や調べてみる学習に進んで取り組めるように指導をしてくれている。	67.2%	73.4%	73.6%
17	先生は、あいさつの励行やきまりを身に付け、学校生活が向上するよう指導をしてくれている。	83.0%	88.7%	84.2%
18	先生は、学級活動や生徒会活動・学校行事に進んで取り組めるように指導をしてくれている。	76.8%	83.7%	80.2%
19	先生は、将来の進路や生き方・働くことの意味について、先生や友達と相談したり、考えたりすることができるよう指導をしてくれている。	70.4%	73.4%	74.6%
20	先生は、いじめや仲間はずれなどがなく、相手の立場を考え、互いに協力し合える関係がつかれるように指導をしてくれている。	76.5%	80.6%	83.8%
21	先生は、相談ののってくれたり、意見を尊重したり、励ましたりしてくれている。	75.6%	78.7%	77.6%
22	先生は、学校生活が充実し、楽しめるように指導をしてくれている。	78.5%	81.2%	78.2%
23	友達や先生に対して、気持ちの良いあいさつができています。	78.8%	80.3%	82.5%
24	学級・学年活動や生徒会活動・部活動を通して、自分の役割を果たし、自己の有用感や成就感を味わっている。	71.1%	73.4%	72.3%
25	I C Tを活用した授業では、発言・発表の機会を増やし、生徒が互いに学び合う活動を多く取り入れてくれている。	71.7%	76.2%	75.9%
26	小中連携における小学生と中学生の交流や、上級学校訪問などを通しての進路学習を進めることは、とても意義のあることである。	57.6%	64.9%	68.6%
27	中学生レスキュー隊や地域の祭礼・行事等でのボランティア活動へ積極的に参加している。	28.9%	32.0%	37.0%
28	先生方は、生徒の呼び方や生徒への声掛けの際の言葉遣いに、十分気を配っている。	73.3%	76.8%	78.2%

## 2 保護者対象の教育調査の結果

教育調査（保護者対象）の結果（肯定率） \*青字は前年度の肯定率を上回ったもの 本校の回答率：48.3%(R6) 55.9%(R7)

	質問内容	本校肯定率の推移			区全体
		R 6	R 7	R 7	R 7
1	子どもは、授業で学ぶことにより、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできることが増えている。	65.1%	61.0%	60.2%	
2	子どもは、学校でみんなと一緒に過ごすことによって、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている。	73.8%	73.3%	69.6%	
3	子どもは、学校で人権に関する多様な価値観について学んでいる。	48.8%	71.1%	63.4%	
4	学校は、子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している。	48.3%	52.9%	53.3%	
5	連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。	52.3%	50.3%	46.6%	
6	子どもは、児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツを、自分の学びや生活の必要に応じ、選択して活用している。	70.3%	73.8%	69.4%	
7	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている。	29.7%	38.0%	40.4%	
8	学校は、いじめを絶対に許さないという雰囲気がある。	54.7%	71.1%	50.0%	
9	学校は、子どもの日常の学びの状況や評価方法について、参観、面談、HP、お便り等により充分提供している。	77.9%	79.7%	68.2%	
10	学校は、欠席等連絡、お便りの配布、アンケートの実施のオンライン化が進められている。	89.0%	93.0%	88.6%	
11	学校では、教職員、他の保護者、地域の方等とかかわり、子どもの成長や学校生活について考えたり話したりすることができている。	58.1%	58.3%	49.7%	
12	子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている。	47.7%	53.5%	41.0%	
13	学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている。	12.8%	22.5%	31.4%	
14	子どもは、学校生活を楽しんでいる。	79.7%	80.7%	74.2%	

## 3 学校運営協議会委員対象の教育調査の結果

教育調査（学校運営協議会委員対象）の結果（肯定率） \*青字は前年度の肯定率を上回ったもの 回答率：100%(R5) 90.0%(R6) 90.0%(R7)

	質問内容	本校肯定率の推移			区全体
		R 5	R 6	R 7	R 7
1	子どもたちは、学ぶ楽しさを実感しながら、問いや課題を自分なりに立て、自分なりの方法で解決したり探究したりする力が育っている。	90.0%	100.0%	100.0%	81.4%
2	子どもたちは、違いを認め合って共に生きる大切さを実感しながら、それぞれの得意を生かしたり、苦手を補い合ったりする力が育っている。	80.0%	77.8%	100.0%	84.1%
3	教員は、全ての子どもが共に学ぶ中で自分らしく成長できるよう、それぞれの経験や専門性を生かし合っている。	90.0%	88.9%	100.0%	78.8%
4	学校は、全ての子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭や地域、民間の団体や企業等と連携している。	80.0%	88.9%	88.9%	83.2%
5	児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツは、子どもたちによって、その時々学びや生活の必要に応じ、選択的に活用されている。	90.0%	100.0%	77.8%	69.9%
6	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている。	50.0%	55.6%	77.8%	56.6%
7	学校では、校長を中心に、教育目標や目標達成の基本方針、指導の重点について家庭・地域と協議し、子どもたちの思いや願いを尊重する教育課程を編成している。	100.0%	100.0%	100.0%	93.8%
8	学校では、授業や行事、学校生活の内容や進め方について、子どもたちが、学びや生活の主体であることを実感しながら、自分たちで考えたり教職員（学校関係者を含む）と話し合ったりしている。	90.0%	100.0%	100.0%	88.5%

## 4 教育対象の教育調査の結果

教育調査（教員対象）の結果（肯定率）\*青字は前年度の肯定率を上回ったもの 本校の回答率：100%(R6) 100%(R7)

	質問内容	R 6 肯定率	R 7 肯定率	
			本校	区全体
1	授業では、児童・生徒が、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学べるようにしている。	72.7%	70.0%	67.3%
2	授業では、児童・生徒が、学習を進める方法やペースを自分で決めながら学べるようにしている。	68.2%	70.0%	55.3%
3	授業では、児童・生徒一人ひとりの学びに合わせて、「わからない」を解決するための指導・支援をしている。	86.4%	80.0%	80.4%
4	学級の全体に関わることは、児童・生徒が自分たちで、全員の考えや気持ちを確かめながら決められるようにしている。	90.9%	80.0%	75.1%
5	学校生活で児童・生徒が疑問に思ったことは、全校で話し合ったり、みんなで合意したりしながら変えられるようにしている。	90.9%	85.0%	75.1%
6	学校の教育目標や目指す児童・生徒像、特色ある教育活動や教育課程などについて、学校評議会や学校運営協議会、学校関係者評価委員会で協議している。	90.9%	70.0%	70.2%
7	児童・生徒が、自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している。	72.7%	60.0%	61.7%
8	連携する小・中学校による小中一貫教育（各教科等において、義務教育9年間を見据えた一貫性のある学習指導計画の作成、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。	86.4%	90.0%	57.6%
9	教員である自分自身が身に付けたい資質・能力について、必要な学びが得られており、学び続けることができている。	90.9%	80.0%	75.7%
10	子どもと向き合う時間が確保できている。	63.6%	55.0%	54.1%
11	タイムマネジメントを意識して勤務できている。	40.9%	45.0%	54.4%
12	勤務する学校は、働き方改革に意識的に取り組んでいる。	36.4%	30.0%	46.8%
13	誇りややりがいをもって仕事を行うことができている。	90.9%	90.0%	72.8%
14	ワーク・ライフ・バランスのとれた生活を送ることができている。	31.8%	45.0%	44.7%
15	スクール・サポート・スタッフの活用が負担軽減につながっている。	86.4%	80.0%	82.7%
16	児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツは、子どもたちが学びや生活の必要に応じ、選択して活用している。	86.4%	80.0%	70.5%
17	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫を行っている。	50.0%	40.0%	46.5%
18	授業や行事、学校生活全般において、その内容や進め方を、児童・生徒が自らを学びの主体であると実感しながら、自分たちで考えたり教職員及び学校関係者と話し合ったりできるようにしている。	90.9%	90.0%	70.2%

## 【2】杉並区立西宮中学校 令和7年度 自己評価・学校関係者評価について

教育調査の結果に基づく自己評価と学校関係者評価委員会が出た各委員からの意見・感想及び質問等について、学校側の回答とともに「学校関係者評価の結果」としてまとめました。

### 1 教育調査の分析【自己評価】

#### (1) 生徒対象

○全 28 項目のうち、12 項目で昨年度の数値を上回った。

○肯定率が 50%未満の項目は、「【質問 13】の地域行事、【質問 27】のボランティア活動」であった。なお、生徒対象の教育調査は他の教育調査とは異なり、済美教育センターが実施するものではなく本校独自の調査のため

め、区全体の肯定率は出ていない。

・「【質問 1 3】地域行事」の肯定率の推移を見てみると、一昨年と比較して約 10 ポイント、昨年と比較して約 1 ポイント上昇している。同様に、「【質問 2 7】ボランティア活動」の肯定率は一昨年と比較して約 8 ポイント、昨年と比較して 5 ポイント上昇しており、生徒の参加意識は年々上昇している。

・今年度も本校の有志生徒やボランティア部、生徒会本部役員等による「ホテル祭りグリーンボランティア」への参加や「高井戸第二小学校の運動会支援」、「ふれあい運動会支援」等の活動が実施できた。また、9 月には「ゆうゆう久我山館」の敬老会においてボランティア部がお手伝いを、吹奏楽部が演奏を行った。さらに吹奏楽部は 7 月に「宮前五丁目南・北地区防災防犯会共催七夕コンサート」や 10 月の「高井戸区民センター祭り」にも参加し、地域の皆様に演奏を披露し、パフォーマンスを観ていただいた。

・「ホテル祭りグリーンボランティア」への参加者は例年約 50 名程度だったものが、昨年度は 84 名が、そして今年度は 90 名の生徒が早朝の清掃活動に参加した。また、杉並区中学生レスキュー隊の活動では、合同訓練や東京消防庁の防災施設での見学及び防災体験、西宮中学校震災救護所の役員の皆様の指導を受けての年 3 回の訓練等を実施した。

## （２）保護者対象

○全 14 項目のうち、区の肯定率の平均を上回った項目は 11 項目である。

○区の平均を下回った項目は「【質問 4】企業等と連携した学び」「【質問 7】多様な場や道具の選択」及び「【質問 13】特別支援学校・学級との交流」の 3 つであった。

○本校だけで比較すると、全 14 項目のうち、11 項目で昨年度の数値を上回った。

○肯定率が 50%未満の項目は、「【質問 7】多様な場や道具の選択」、「【質問 1 3】特別支援学校・学級との交流」であった（どちらも昨年と比較すると、それぞれ 10 ポイント近く上昇している）。なお、肯定率が低い原因の多くは否定的な回答が多いからではなく、回答の選択肢の「どちらともいえない」や「回答できない」と答えた割合が高いことにある。こうした状況を改善するために、今後も積極的に学校の取組を発信していく。なお、各項目の取組は次のとおりである。

・「【質問 4】企業等と連携した学び」の肯定率は 52.9%であった（区平均 53.3%）。第 1 学年は 6 月に講師を招いて「生き方学習」を実施し、社会の動きや仕事の内容について学習した。生徒は「自分と社会のつながり」や「自分自身の適性や興味・関心」について考える機会となった。また、第 2 学年では 7 月に「職場体験学習」を 3 日間実施した。また、その事前学習として礼儀作法や電話対応など実務的なことについて学ぶ機会をもった。

・「【質問 7】多様な場や道具の選択」の肯定率は 38.0%であった（区平均 40.4%）。昨年度、全学級に最新の電子黒板が設置され、授業を実施する上で利便性が大きく向上した。さらに今年度は教員及び生徒が使用するタブレット端末も最新のものに入れ替わっており、生徒にとっては協働的な学びが促進されるなど教育効果が大いに高まった。また、定期考査前には学校支援本部による自主学習の場「アフタースクールスタディ」を実施している。夏季休業中には自主学習教室等も行っている。小学校とは異なり、中学校という資源が限られている環境の中で、今後も最大限の工夫と努力を重ねていく。

・「【質問 13】特別支援学校・学級との交流」の肯定率は 22.5%であった（区平均 31.4%）。特別支援教育については、巡回の特別支援教室教員や済美教育センター及び特別支援教育課等をはじめとする関係諸機関と連携し、特別な支援が必要な生徒及び保護者には様々な情報を伝えているが、一般の生徒及び保護者にとっては情報に触れる機会が少ないと感じていることが考えられる。なお、本校のボランティア部は、杉並第十小学校を会場に「ふれあい運動会」に毎年参加し、障害をもつ子どもたちと交流を深めている。こうしたことについて、さらに情報発信をしていく必要がある。

### （3）学校運営協議会委員対象

○ほとんどの質問項目で肯定率が 80%を上回り、高い評価をいただいた。

○肯定率 80%を下回った項目は 2 つであった。

・「【質問 5】様々なデジタルコンテンツ」の肯定率は 77.8%であった（区平均 69.9%）。先述したとおり、教員及び生徒が使用するタブレット端末が最新のものとなり、様々なデジタルコンテンツを活用した授業を実施することができている。全教員がタブレット端末を活用した授業を展開しており、ICT 支援員とも連携を図りながら生徒にとって協働的な学びとなるような授業作りに取り組んでいる。

・「【質問 6】多様な場や道具の選択」の肯定率は 77.8%であった（区平均 56.6%）。保護者の欄（【質問 7】に対する分析）で述べたとおり、これからも最大限の工夫と努力を重ねていきたい。

### （4）教員対象

○全 18 項目のうち、区の肯定率の平均を上回った項目は 11 項目である。

○区の平均を下回った項目は「【質問 3】「わからない」を解決」「【質問 6】「学校運営協議会で協議」「【質問 7】企業等と連携」「【質問 11】タイムマネジメント」、「【質問 12】働き方改革」「【質問 15】スクール・サポート・スタッフの活用」及び「【質問 17】多様な場や道具の選択」の 7 点であった。

・「【質問 3】「わからない」を解決」の肯定率は 80.0%（区平均 80.4%）で、決して低い数値ではなかった。

今後も生徒一人ひとりの学びに合わせて、生徒が興味・関心を高めることができるよう指導・支援していく。

・「【質問 6】「学校運営協議会で協議」の肯定率は 70.0%（区平均 70.2%）であった。今年度、学校運営協議会は年 10 回を予定して実施しており、学校の教育活動や課題等について協議している。さらに毎年 8 月と 3 月の学校運営協議会には多くの教職員も参加している。学校運営協議会での報告事項や協議事項については本校 H P でも公開されているが、全教職員がその情報を共有する方法についてさらに工夫を重ねる。

・「【質問 7】企業等と連携」の肯定率は 60.0%（区平均 61.7%）であった。先述のとおり、教育課程に基づき、各学年では学校支援本部や震災救援所運営連絡会等の協力のもと、外部講師等を招聘した学習を実施している。来年度はさらに探求的な学びをさらに充実させていくために教員の意識を高めていく。

・「【質問 11】タイムマネジメント」の肯定率は 45.0%（区平均 54.4%）、「【質問 12】働き方改革」の肯定率は 30.0%（区平均 46.8%）、「【質問 15】スクール・サポート・スタッフの活用」の肯定率は 80.0%（区平均 82.7%）であった。教員が誇りや情熱そして使命感をもって職責を全うすることが、子どもたちの幸せにつながると私たちは確信し、どの教員も時間を惜しむことなく日々職務に邁進している。一方で、教員の長時間労働は看過できない問題である。本校では働き方改革を受け、「部活動活性化事業や部活動指導員、部活動外部指導員の導入」、「採点システムの導入」、「多機能印刷機の導入」等により教員の負担を軽減する取組を行っている。また、「20 時完全退勤の呼びかけ」、「週に 1 度の定時退勤の呼びかけ」等により業務の優先順位を意識付けさせ、業務の効率化を図っている。「スクール・サポート・スタッフの活用」については 80.0%と高い数値ながら区より若干低い結果となった。「スクール・サポート・スタッフの活用」は確実に教員の業務負担軽減につながっており、来年度も継続して配置していく予定である。

・「【質問 17】多様な場や道具の選択」の肯定率は 40.0%（区平均 46.5%）であった。先述したとおり、ハード面とソフト面においてさらに生徒を支援するよう教員の意識を高めていく。

## 2 委員からの意見及び質問等【学校関係者評価】

日 時：令和 8 年 2 月 2 7 日（金） 1 7 : 0 0 ~ 1 8 : 3 0

会 場：杉並区立西宮中学校 1 階少人数教室

<記号の説明>

○：委員からの意見・質問 →：学校からの回答 ●：出席者からの意見・感想等

○ スクール・サポート・スタッフ（以下 S S S と表記）は何人の方が週何回来校しているのか。

→ 本校の S S S は 2 名の方が、合計週 3 回勤務している。

● 私はよく学校を訪問し、職員室の様子も拝見している。先生方は S S S に仕事をお願いすれば仕事が軽減できると思うが、つつい頼めなくて自分でやってしまう先生も見受けられる。私が午後 6 時過ぎに職員室を訪問すると、ほとんどの先生方は退勤せずに仕事をしている。先生方はやはり早く家に帰りたい気持ちもあると思うが、仕事があるから退勤できない、それが教育調査の数字に表れているのかとも思える。

● 教員の教育調査の結果で「【質問 1 3】誇りややりがいをもって仕事を行うことができている。」の肯定率が 90% を超えていることから、それだけ時間をかけて先生方が仕事に向き合っているし、無理しているところもあるのかと思う。先生方は S S S に仕事をお願いしているが、まだまだお願いできる部分はあるのかと思う。

● 先生方が S S S に仕事を依頼するためには、依頼する側が仕事の見通しをもって、計画性をもつことが必要だと思う。もしかすると先生方はそういうことが苦手なのかもしれない。事前に段取りを組んでおくよりも、自分でやってしまったほうが早く終わるかもしれない、という思いがあると、結局 S S S に頼まずに終わってしまう。そこを変えていけば、先生の退勤時間も早まるのかもしれない。

● 数値が低い項目について、伝える側がもう少し努力をしなければならないこともあると思う。例えば教員の結果で「【質問 6】学校の教育目標や目指す児童・生徒像、特色ある教育活動や教育課程などについて、学校評議会や学校運営協議会、学校関係者評価委員会で協議している。」の肯定率は 70% となっているが、我々学校運営協議会についても、どのようなことを会議で行っているのかについて先生方に伝える努力をしなければならない。

● 学校や学校運営協議会等の取組について、保護者の方にも情報をキャッチしてもらえよう工夫する必要がある。

→ 保護者や地域の方々に学校等での取組を伝えるということは管理職の役割となるので、その点は今後の課題として改善する。

● 情報を伝えるという点では、先日行われた新入生保護者説明会での先生方の説明は、決められた時間の中で効率よく要点を伝えていて見事だった。各担当が伝えたいことを保護者の方にしっかりと伝えることができたのではないかと。

- 機会があれば学校運営協議会委員が先生方の授業を参観してはどうか。体育大会や音楽会などの行事には参加する機会があり、その時の様子はわかるが、日常の学校生活の中で先生方や生徒がどのように教育活動に取り組んでいるのかは、参観してみないとわからない。普通の授業では先生方は工夫しながら I C Tを活用して協同的な学びを実践している。この前の授業で国語科の先生はディベートを行っていたが、子どもたちは調べた内容や自分の意見を、タブレット端末を活用して全体で共有するなどしていた。生徒たちは論点や根拠等をクラスで共有しながら授業を展開していた。道徳の授業でも I C Tは活用されていて、授業の最後に自分のタブレットでまとめた感想を教室のモニターに映して全体で共有する時間をもったりしている。
- 昔なら挙手して発表することが当たり前だったが、I C Tを活用することで授業のスタイルは大きく変わったと思う。
- 基本的には学校運営協議会委員の肯定率に表れているように、学校は一生懸命やっていると評価している。そのことをこの場で確認してこの学校関係者評価委員会を閉じたいと思う。